

12月10日 逍遙 

ところで、この界隈にはもう一つ、皮肉なエピソードがあるよ、と逍遙館長さんは話してくれました。今ではすっかり、鹿児島市内の風景に溶け込んでいる路面電車。そもそもは大正元年12月の武之橋～谷山間からだったそうですが、その後、鹿児島駅まで路線を延伸する際、都心（当時は、今の鹿銀本店裏側の「広馬場通」がメイン通りで、各種問屋や大規模商店（明治屋呉服店等）、金融機関などが立ち並ぶビジネス街だったのだそう）をどう通すかで意見が分かれ、このビジネス街の関係者からの、電車の騒音で商売があがったりになる、などといった猛烈な反対もあって、結局、現在の位置（当時は「加治木町通」と呼ばれていたそう）に決まったのだとか。

でもその結果、それまでのビジネス・繁華街は全くの裏通りとなってしまう、対照的に、電車通りに面した一帯が活気づき、現在に至っているのだそう。

勿論、山形屋の正面入口も、これを機に、それまでの「木屋町通」から「加治木町通」に方向転換したのだとか。本当に皮肉なものですね。

次回「逍遙館長とすず それぞれの健康増進法、のこころ」

路面電車が語る

先読み力、のこころ

